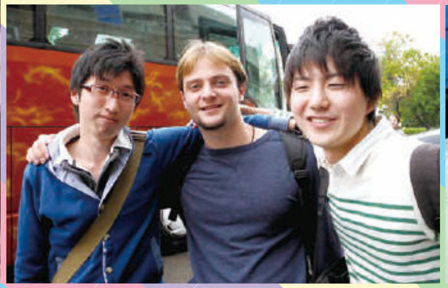
文京学院
創立100周年



文京学院大学

FACT BOOK

「新・文明の旅」プログラム

THE "ROAD OF EURASIAN CIVILIZATION" PROGRAM

「新・文明の旅」プログラム ホームページ

新・文明の旅 検索

ユーラシア諸国を探訪し、学びと出会いを紡いでいく

「新・文明の旅」プログラム

あなたの

“新しい旅”が

今、はじまる…

The "Road of Eurasian Civilizations" Program

「新・文明の旅」プログラム ルートマップ

「新・文明の旅」プログラムは、文京学院大学20周年を迎えた年、開学以来様々な独自の教育を行ってきた本学が「教育力日本一」という“てっぺん”を目指す象徴として、文京学院創立100周年の2024年まで、約15年間に及ぶ長期プログラムとしてスタートしました。

このプログラムは、文京学院大学の伝統行事となっている、学生主催の東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道を駅伝方式で各区間においてさまざまな取り組みを行いながら踏破する、「五街道ウォーク」の世界版とも言われていました。

しかし、この「新・文明の旅」プログラムにおいては踏破が目的ではありません。「海外に向かって日本を発信し、多様な情報をキャッチし、新たな創造ができる人間の形成」を目的とする学部横断型の教育プログラムです。世界のグローバル化社会が進む今、21世紀を生きる学生達は日本にとって重要になってくるユーラシア大陸諸国に目を向けていく必要があります。そして、若い時に広く世界を見据えて、同世代の人と語り、異なる文化・文明に接することにより、計り知れない刺激を受け自分を成長させることを目的としています。学部や学科、そして学年の垣根を超えて学生が協働しながら、このプログラムを通して「文京学院生として何が発信できるのか」を考え、協調性と探究心を培っていきます。

今しかできない、「新・文明の旅」での貴重な経験が

自分の視界をグローバルに広げる ファーストステップ。

「新・文明の旅」プログラムとは

このプログラムは、2011年から2024年文京学院創立100周年までの約15年間で、ユーラシア大陸を東ヨーロッパから中国そして朝鮮半島まで、3年に一度2週間～3週間で2～3ヶ国を訪問するプログラムです。
トルコからスタートし、シルクロードをたどり、その近隣諸国を訪れ、それぞれの国の文化や風土に触れ、同世代の学生と交流し、文化や歴史を学ぶとともに、学生が日頃学び身につけた事柄を伝え、交流します。
このプログラムの特質として、グローバリゼーションに代表されるアメリカの視点からのみではなく、ユーラシア大陸の多様な視点を学ぶことで、これまで触れることのなかった異なる知識を身につけ、何かをクリエイトできる、自己と日本を発信できる人間を形成することにあります。

〈 授業の特徴 〉 18ヶ月にわたって、じっくり取り組む教育プログラム

STEP1

1 事前授業

新・文明の旅 特講a （前期）4月～8月

新・文明の旅 特講b （後期）9月～3月

- 訪問国のさまざまな事柄を研究し理解を深めます。
- 訪問国の大使館や訪問予定の大学関係者と交流を持ち多様な経験を積みます。
- 訪問した際にどんな行動学習をとるかを、個人あるいはチームで立案・計画をし、オリジナリティあふれるフィールドワークプランを設計・発表を行います。

2 渡航者選抜（12月）

この授業には、毎回多くの履修学生がいます。
実際に、訪問国へ渡航できるのは15名程度です。
「新・文明の旅 特講b」の最後には、海外渡航メンバーの選抜を行います。国内メンバーには海外メンバーと協力して、国内での活動を実施してもらいます。

3 訪問国での交流（3月）

選抜されたメンバーは、約2週間をかけて訪問します。
現地の大学などを訪れ、現地の学生たちと交流し学び合います。

STEP2

事後授業

新・文明の旅 総合講義 （前期）4～8月

「新・文明の旅」を通して、"何を得てそれをどう活かすことによって自ら成長していくのか"をテーマに「新・文明の旅　総合講義」において成果報告（プレゼンテーション）を行います。
また、この科目は「新・文明の旅」を初めて知る新1年生も履修することが可能となっています。先輩たちの学びの成果を聞きながら、次回に向けて自分の「新・文明の旅」をプランニングします。

「新・文明の旅」で得られる力

1 発信力

授業を通して情報収集し、自ら考え発信する機会が何度もあります。自分自身の考えを「言葉」で表現し、発信する力が養えます。

2 探求活動力

訪問国、交流大学に関するあらゆる情報を入手するために、大使館、観光局、外務省、留学生、提携大学等を伺い、調査・研究し、プレゼンテーションテーマの設定および構築に備えます。

3 他者理解と協働力

他学部、他学年の仲間たちと学びあい、多くのことをディスカッションして授業を進めていきます。また、様々な文化的背景を持った交流大学の学生たちと多く関わる機会があり、コミュニケーション能力の向上につながります。

4 チームビルディング

交流大学の学生たちとの交流方法や、自分たちの国についてどのように発信していくか、様々な授業を履修している学生が一つのチームとなり考えていきます。様々なアイデア、意見を出し合いながら、この「新・文明の旅」プログラムを進めていく過程で、「チームで活動する力」が身につきます。

自分たちの"成長度"を身をもって実感できるのが、「新・文明の旅」プログラムの特徴です。

Timeline

「新・文明の旅」15年史

2011.4 ～ 2012.9 Turkey・Bulgaria・Romania

第1回
- 2012年2月～3月
トルコ・ブルガリア・ルーマニアへ訪問

Rec1 新・文明の旅 特講 a
新・文明の旅 特講 b
新・文明の旅 総合講義

2013.9 Bulgaria

- 「新・文明の旅＋」
ブルガリア / ソフィア大学へ再訪

2014.4 ～ 2015.9 Latvia・Lithuania・Poland

第2回
- 2015年2月～3月
ラトビア・リトアニア・ポーランドへ訪問

Rec2 新・文明の旅 特講 a
新・文明の旅 特講 b
新・文明の旅 総合講義

2017.4 ～ 2018.9 Uzbekistan・Kazakhstan

第3回
- 2018年2月～3月
ウズベキスタン・カザフスタンへ訪問

Rec3 新・文明の旅 特講 a
新・文明の旅 特講 b
新・文明の旅 総合講義

2019.9 Latvia・Lithuania

- 「新・文明の旅＋」
ラトビア・リトアニアへ再訪

大学開学30周年

2021.4 ～ 2022.9 Thailand・Cambodia・Indonesia

第4回
- 2022年2月～3月
タイ・カンボジア・インドネシアと交流

Rec4 新・文明の旅 特講 a
新・文明の旅 特講 b
新・文明の旅 総合講義

- 2022年9月
インドネシアへ訪問

文京学院創立100周年

2023.4 ～ 2024.9 Cambodia・Taiwan・Korea

第5回
- 2024年2月～3月
カンボジア・台湾・韓国へ訪問

Rec5 新・文明の旅 特講 a
新・文明の旅 特講 b
新・文明の旅 総合講義

第1回

トルコ・ブルガリア・ルーマニア

東ヨーロッパ3ヶ国をめぐり異文化交流

記念すべき旅の始まりは、日本とトルコの震災からの復興を祈念する旅でもありました。それぞれ訪問国で人々の温かさに触れ、どんなに遠く離れた国でも心はいつもそばに感じることができ、今後のプログラムへの自信にも繋がりました。

学習プログラム

トルコ アンカラ大学教授による特別講義

このプログラムは、訪問国の関係者が講師として特別講義を行います。訪問国について歴史、文化や言語など映像等を用いながら分かりやすく教えてくれます。第1回目は、アンカラ大学のテキメン先生による講義でした。履修学生たちは熱心に講義へ耳を傾け、積極的に異文化について学びました。

伝統的なお菓子作りを通して身につくコミュニケーション力

「新・文明の旅」は、全学共通科目として開講されているため、本郷キャンパス・ふじみ野キャンパスの両学生がオンラインで受講します。日頃の授業では直接会うことのできなかった学生たちが、訪問国の伝統的なお菓子を一緒に作り交流を深めるとともに、コミュニケーションの重要性を再確認しました。

将来に役立つプレゼンテーション力

授業では情報収集をし、それに基づいて個人またはグループでプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは授業内に限らず、大学祭やオープンキャンパスなど学生、地域住民、大使館関係者などいろいろな方に発信します。プレゼンのノウハウが自然と身につき、自身の強みとなります。

2012+2013

Republic of TURKEY　Republic of BULGARIA　ROMANIA

「新・文明の旅＋（プラス）」
ブルガリア交流プログラム ➡ P31

派遣プログラム

Turkey トルコ

アンカラ大学訪問

トルコ革命の父・アタチュルク大統領により、首都アンカラに創立されたトルコで最も伝統のあるアンカラ大学では、日本語・日本文学専攻学科の学生たちと交流を行いました。東日本大震災（3.11大震災）とトルコ大地震について双方のプレゼンテーションを行ったり、街を視察したりしました。滞在中はアンカラ大学生たちの家にホームステイし、トルコの生活を実体験しました。

対面式からすぐに仲良くなれました♪

世界遺産カッパドキアは雪景色！

プレゼンテーションの様子

Bulgaria ブルガリア

ソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学訪問

1888年に設立された歴史ある総合大学で、約24,000人の学生が学ぶソフィア大学と、古城跡や中世の街並みが残る、森林に囲まれた自然豊かな美しい場所にあるブルガリアで2番目に大きな大学ヴェリコ・タルノヴォ大学に訪問。「新・文明の旅」プログラムでは2つのチームに分かれて、それぞれの大学で、日本の伝統的な作法を発表したり、日本食を一緒に作ったりと楽しい交流が行われました。

振る舞ったおもちが大好評！

被災地ボランティアとスカイプ交流

現地学生と豆つかみゲーム

Romania ルーマニア

アレクサンドル・イオン・クーザ大学訪問

ルーマニア東北部の古都ヤシにある、1860年に設立されたルーマニアで最も古く歴史深いアレクサンドル・イオン・クーザ大学。多くの国から留学生を受け入れているこの大学では、留学生たちの寮に滞在し様々な国の学生たちと交流をしました。日本語や日本文化を研究・紹介している「ひまわり」という団体に所属している人々と「ひなまつり」という行事で日本の紹介をし、地域住民とも触れ合うことができました。

名前を漢字にして書道体験！

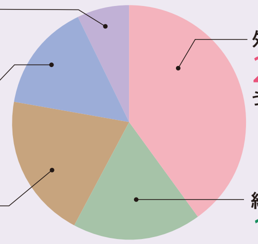
首都ブカレストをみんなで視察！

個人プレゼンテーション後の集合写真

スケジュール

2011	2012
3月：アンカラ大学教授特別講義	1月：東日本大震災被災地派遣チームボランティア
4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a	2月：新・文明の旅 派遣プログラム 2月29日〜3月17日
9月：新・文明の旅 特講b	4月：新・文明の旅 総合講義
10月：駐日臨時代理トルコ大使講演会	
12月：トルコ東部大地震義援金 派遣学生選抜発表	10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：55名）



東日本大震災 被災地から世界（未来）を共に考える（国内フィールドワーク）

2011年3月に発生した「東日本大震災」、第1回「新・文明の旅」はこの大震災の1年後に実施されました。「東日本大震災」発生時は海外メディアでも大きく取り上げられていましたが、復興プロセスについてはあまり伝えられていませんでした。そこで、第1回「新・文明の旅」プログラムに参加していた学生たちで『「新・文明の旅」東日本大震災被災地派遣チーム』を作り、実際に被災地で取材やボランティアを行いながら、自ら見て体験した被災地の現状、そして、復興に向けて進み続けている未来への活動を、トルコのアンカラ大学、ブルガリアのソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学において、それぞれの現地学生へスカイプを通じてリアルタイムに伝えました。短期間のうちに日本語教育の手法を学び、プレゼンテーションを行ったことで、被災地派遣チームの「伝えたい思い」がトルコやブルガリアの学生たちへ充分に伝わり、多くの学生たちが涙を流しながら対話できたことはとても有意義な時間でした。被災地派遣チームの熱意と努力は、「新・文明の旅」にとっても、彼らにとっても、価値ある成果だったと言えます。

被災地での調査・発信

Interview

Republic of TURKEY
Republic of BULGARIA
ROMANIA

01

第1回 新・文明の旅 派遣メンバー
保健医療技術学部 2013年度卒業

クチュクカヤ 瞳さん

（旧姓：佐々木）

訪問国では日本における理学療法士の役割を発表。現地の学生との意見交換は、医療を地球規模で考えるきっかけに。現在は、ブルガリアにも病院を持つ医療機関で理学療法士として活躍する。2020年8月にトルコ人の男性と結婚。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

“まずはやってみる” この経験が今も自分の後押しになってくれている気がします

訪問国で受けたカルチャーショック 日本をもっと良い国にしていくために

私がこのプログラムに参加した理由は、大学生のうちに何か自分を変えるチャンスがほしい、そんな気持ちからでした。実際にこの機会を経て変化した部分は、「まずはやってみよう」という意識が生まれたことだと思います。自分が全く知らなかった国々への渡航や、日本語が通じない人々との交流など、プログラムの中では挑戦を求められる機会が多々ありました。そのようなときに、まずはやってみないことには、その経験の先に待っているものには出会えません。間違えても修正して再チャレンジすればいい。それを実感できた旅だったからこそ、今病院で働いている中でも外国人の患者さんと接するときに、物怖じせずにコミュニケーションをとることもできているんじゃないかな、と感じています。

ホームステイや学生寮への宿泊では、現地の学生とご飯を一緒に食べ、授業を受けて、学校の後はみんなで遊びに行く、というその国の生活を経験できたことが楽しかったですね。真冬に路上で生活している人を見かける、常にシャワーが使えるわけではないなど、カルチャーショックも受けました。日本は本当に恵まれていて、便利な国。それを改めて実感するとともに、何か物足りなさを日本という国に感じるようになりました。それは何だろうと考えたときに、人と人の関係性の希薄さや孤独感、困ったときに助けを求めにくい環境など、生きづらさがあることに気づいたのです。こういった環境をそのまま過ごすのではなく、変えるためには自分自身が行動していかなければならないと思うようになりました。それが、家族をつくるという私の人生の選択にもつながりましたし、日本という国をもっと良くしていくために、自分は何をしていけばいいのだろうと考えるきっかけになったと感じています。

海外の
医療についても
知見を広げられました

訪問中、
ブルガリアの
新聞に
取り上げられ
ました！

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

お答えいただいたのは・・・

「聖キリルと聖メトディー」ヴェリコ・タルノヴォ大学
日本語・文化センター長
カーテャ・マリノヴァ 先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？

「新・文明の旅」プログラムは学生同士にとって役に立ったと思います。みんなが楽しみながら両国のことを学べたのは何よりだと思います。そして先生方の話し合いのきっかけになったことも良かったと思います。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは?

ブルガリアでは日本人と話す機会は珍しいです。特に本学の学生が同年代の人と話す機会はほとんどないので、交流できたのは大変良かったと思います。貴学の学生と先生方はブルガリア料理を味わったり、ヴェリコ・タルノヴォ市・アルバナシ村を見学したりし、楽しかったと思います。そして貴学の学生にプレゼンテーションをしていただいて、本学の学生が助手の役割をしたこともいい勉強になったと思います。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

貴学の学生にブルガリアや、ブルガリアの文化に興味を持っていただければ幸いです。これからも交流がうまく進んでいくことを願っております。

College Information

ヴェリコ・タルノヴォ大学

住所：Tarnovski str., 5003 Veliko Tarnovo, BULGARIA

ブルガリア北東部にある地方都市ヴェリコ・タルノヴォにある大学です。100か国以上の大学と協定があり、首都のソフィアを除くブルガリアの大学の中では最も大きな大学の一つです。

第２回

2015 + 2019

Republic of POLAND　Republic of LITHUANIA
Republic of LATVIA

「新・文明の旅＋（プラス）」
ラトビア・リトアニア交流プログラム ➡ P31

ポーランド・リトアニア・ラトビア

日本人との繋がりが強い3ヶ国を巡る「人道の旅」

福井県敦賀市に、1920年代のポーランド孤児や先の大戦で迫害されたユダヤ人が上陸した人道の港があります。またリトアニアでは、ユダヤ人を守るために奮闘した日本人外交官にもクローズアップ。日本とヨーロッパの絆を実感しました。

学習プログラム

駐日ポーランド大使館 特別講義

第2回プログラムは、第二次世界大戦中にナチスの迫害から逃れるためユダヤ人約6,000人にビザを発給した外交官・杉原千畝氏が赴任していたリトアニアや、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所、そして日本国内の活動地として、ポーランドからの孤児たちを受け入れていた福井県敦賀市の訪問など、各国の歴史をたどる「人道の旅」プログラムといえるものでした。授業では、訪問国の大使館より特別講義等が行われました。

交流先とのオンライン授業

渡航に向け、日本文化や難民問題について学び、さらに学生たちは各自でプレゼンテーマを考え発表資料を作成しました。作成資料について、交流先のヴィタウタス・マグヌス大学の学生よりコメントが寄せられ、現地大学とのスカイプによる交流が実現しました。その後、プレゼンテーションの練習やリハーサルを行い、全履修学生のプレゼンテーションを動画にまとめたことで、学生たちの成長の記録にもなりました。

留学生との交流

駐日ポーランド大使館、駐日リトアニア大使館の協力を経て、文化交流イベント「川越ウォーク」を成果外活動として実施。ポーランドとリトアニアからの留学生やインターン学生を招待して、文京学生がもてなす側となり、ふじみ野キャンパスからほど近い日本を代表する古都「小江戸・川越」をともに散策しながら街を心を込めて案内しました。自分たちの言葉で日本について発信を行い、日本の文化を感じてもらいました。

派遣プログラム

Poland ポーランド

ヤゲヴォ大学訪問

ヤゲヴォ大学は660年の歴史があり、古い校舎ですがとても綺麗な歴史ある建物でした。現地学生たちと自己紹介などをした後、お昼を食べに出掛けた中央広場にはヨーロッパ建築がたくさんあり、息をのむほど美しい光景が広がっていました。昼食はその光景を見ながら外でポーランド料理を味わいました。その後も自由散策を楽しみ、互いの仲を深める良い機会となりました。

マンガ館で日本の最新文化について意見交換

サインした横断幕を手に記念撮影!

箸を使って豆つかみレースに挑戦

Lithuania リトアニア

ヴィタウタス・マグヌス大学訪問

プレゼンの他にも、習字の一筆リレーを楽しみました。想像以上の参加者数で会場は熱気に包まれました。その後、多くの学生とホストファミリー、現地の先生方も集まりホームパーティーが開催されました。ホームパーティーでは、リトアニアの学生がリトアニア料理を、学生たちは日本料理を作ることになり、肉じゃがとオムライスを作りました。日本と同じ調味料や具材を探すのが難しい中、かなり日本の味に近い美味しいものが出来ました。

現地の大学でプレゼン

リトアニアの料理を食べたよ!

ワークショップで現地学生と仲良くなりました

Latvia ラトビア

ラトビア大学訪問

ラトビア大学で「食糧事情と選挙」、「コスプレ」、「捕鯨とメディア」、「お箸」等のプレゼンテーションを行いました。それぞれのトピックに様々な反応や質問などがあり、現地学生に「面白い発表だったよ」と声をかけてもらえました。現地学生も「歌と踊りの祭典」、「夏至のお祝い」、「ラトビア語」、「ラトビアのお菓子・料理」について流暢な日本語で紹介してくれました。現地学生の日本語能力にはとても驚きました。

大学の食堂でご飯を食べたよ!

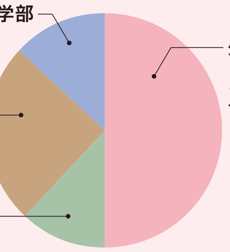
ハッピがとても似合ってる!

現地学生に理解してもらえるように工夫しながら交流

スケジュール

2014	2015
4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a	3月：新・文明の旅 派遣プログラム 3月4日～3月20日
9月：新・文明の旅 特講b	4月：新・文明の旅 総合講義
10月：AAR Japan（「難民を助ける会」）の穂積武寛氏による講義	
12月：派遣学生選抜発表	10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：102名）



敦賀プロジェクト（国内フィールドワーク）

第2回「新・文明の旅」の訪問3ヶ国のなかでも、ポーランド、リトアニアと関わりが深い、福井県敦賀市で「新・文明の旅」履修生が国内フィールド活動を行いました。資料館や博物館などをめぐり、関係者へインタビューをしながら多くの情報収集を行い、なぜ敦賀が「人道の港」と呼ばれるようになったのか、そして、ユダヤ人難民の受け入れと関連の深い杉原千畝氏について学んでいきました。学生たちが行った関係者へのインタビューは彼らの視野を広げるうえで非常に有意義な機会でした。この国内フィールドワークで収集した情報を、皆で話し合いながら整理をして、プレゼンテーション資料を作成し、リトアニアのヴィタウタス・マグヌス大学において、スカイプを介してその活動報告が行われました。

Republic of POLAND
Republic of LITHUANIA
Republic of LATVIA

02

Interview

第2回 新・文明の旅 派遣メンバー
外国語学部 2017年度卒業

木村 太郎さん

卒業後は、セールスプロモーショングッズの企画・販売をメインとする総合商社で働く。ノベルティの企画営業を経て、現在は総務として活躍中。プログラム終了後もリトアニアに旅行で訪問。ホストファミリーに再会を果たした。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

自分の中に それまでなかった風が吹いた 感覚がありました

日本との歴史的な背景が 訪問国と友好的な関係を形成していた

第2回で訪問した国はいずれも親日の国。私たちは、リトアニアでの杉原千畝氏によるビザ発給、ポーランドの孤児受け入れなど、日本との歴史的背景を特講などで学んでから現地へと向かいました。実際、現地の日本語学科の学生たちと触れ合い、会ってすぐ上手な日本語で「どこの街から来たの？」と話しかけてくれたことや、ホストファミリーとの会話からも、人々は日本にとても興味があることが伝わってきました。そこから分かったことは、日本の過去の人々がこの友好関係をつくってきたこと。歴史が今につながっており、そしてまた自分たちの行動も未来につながるということを改めて実感しました。

また現地の学生は、「自分は将来こうなりたくて、この勉強をしている」など、普段の会話からみんな自然と話していました。その目的意識を持って学ぶ姿勢には刺激を受けましたし、自分の将来を改めて考え直すきっかけになりました。世界の同世代の学生たちの考えを知り、意見を直接聞けたことは、お互いの理解にも近づいたのではないかと思います。

そしてやはり衝撃的だったのは、アウシュビッツ強制収容所を訪問したことです。実際に毒ガスがまかれた部屋、人を撃っていたためボコボコとした壁。そういうことをしていた場所に立つという経験は、普通に生きていてなかなかできないと思いましたし、言葉にできない気持ちや歴史の重みを感じました。

日本でテレビや映像を見ていたときには、無意識に自分とは別世界だと思ってしまっていた、東欧・バルトの国々。当たり前ですが、街並みも歩いてる人も日本とは違います。足を運んで、空気を感じたことで、自分の中にそれまでなかった風が吹いた感覚が生まれました。それは、自分と世界が本当の意味でつながりを持った瞬間だったのかもしれません。

発表では日本語だけでなく英単語を使う工夫をしました！

衝撃を受けたアウシュビッツ訪問

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

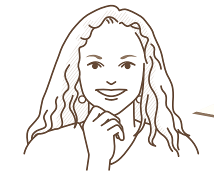
お答えいただいたのは・・・

ヴィタウタス・マグヌス大学
クリスティーナ・バランツォヴァイテ・スキンダラヴィチエネ先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？

文京学院大学の学生が私たちの大学を訪問され、日本語や日本文化を専攻する本学の学生と協同活動を行なったこの独創的なプログラムはとても素晴らしいと思います。学生達がお互いに得られる専門的な知識や異文化に関する知識を多面的に含んでます。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは?



リトアニアの学生にとって、日本の学生の視点から自国の文化などを確認でき、将来的にビジネスや文化面で協力関係を築くためのアイデアを生み出すきっかけになった人もいると思います。また、異なる文化を持つ学生間のコミュニケーションの障壁を取り除くことができました。言葉の壁や文化的背景の違いによる理解の難しさという恐れを克服し、リラックスした雰囲気の中でお互いに学び合うことを楽しんだと思います。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

是非国と文化の架け橋となるこの素晴らしいプログラムを継続してください。本学も貴学とともに今後もさまざまな魅力ある文化活動に参加できることを楽しみにしています。

College Information

ヴィタウタス・マグヌス大学

住所：K. Donelaičio g. 58, Kaunas 44248 LITHUANIA

リトアニア第二の都市カウナスにある、同国最古の国立総合大学です。カウナスは日本人外交官だった杉原千畝の名が広く知られている街で親日家が多く、東アジアプログラムに属する多数の学生が日本語を学んでいます。

カザフスタン・ウズベキスタン

価値観を覆す、感動の中央アジア2ヶ国

近くて遠い中央アジア、普段目にする紛争や内戦のニュースだけで、近づきがたい国とレッテルを貼ってしまいがちです。実際目にした空気は、私たちの想像を超えた色鮮やかな景色が彩ります。次はどんな世界を見せてくれるのでしょうか？

学習プログラム

様々な視点からの情報収集

第3回プログラムは、「シルクロードをたどる平和への旅と学び」というテーマを掲げスタートしました。授業講師として、渡航経験者、ユネスコ、JETRO、大使館関係者を招いた特別授業は、学生にとって有意義な学びとなりました。これらの特別授業を中心に、そのための事前学習と復習の時間を課し、学生同士のディスカッションを通して相互に学び合うことができました。授業を進めていく中で、中央アジアの経済や世界遺産に関する最新ニュースなどもいち早く取り入れ、中央アジアを総合的に学んでいく中で学生の理解は深まっていきました。

発信力を高める学び

アウトプット型の授業として、新・文明の旅特講aで学んだことをベースに自分なりの視点で中央アジアを紹介するプレゼンテーション資料と、自己紹介ポスターの作成に取り組みました。もう一つの活動として、国内フィールドワークがあります。教職員からは各チームに中央アジアと日本の繋がりを課題設定し、学生たちは問いを立て、調査地を選定し、調査テーマを絞っていきました。

学生の協同活動

学生たちは5つのチームに分かれ、東京、山梨、広島、奈良、群馬の各地にフィールドワークへ出掛けました。中央アジアと日本の関連について、出土された美術品や展示・資料を見ることは、シルクロードとの繋がりを身近に感じるよい機会でした。学生たちは今後の渡航に向けて得た知見を基にプレゼンテーションを作成・発表、フィールドワークによって異なる関心や考えをもったメンバーを知り、より一層シルクロードについて深く学び合うことができました。

スケジュール

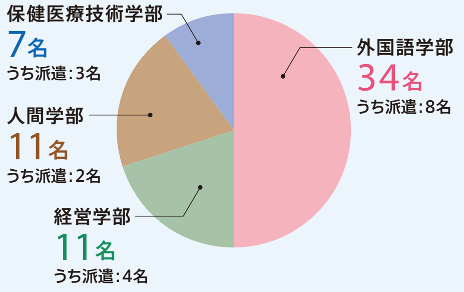
2017

- 4月：履修学生募集
  新・文明の旅 特講a
- 9月：新・文明の旅 特講b
- 11月：フィールドワーク
- 12月：派遣学生選抜発表

2018

- 3月：新・文明の旅 派遣プログラム
  3月13日〜3月22日
- 4月：新・文明の旅 総合講義
- 10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：63名）



派遣プログラム

Kazakhstan カザフスタン

カザフ国立大学訪問

現地の学生と文京生によるプレゼンテーションを行いました。まず文京生より、授業で学んできたシルクロードについてプレゼンを行い、現地の学生からは、カザフスタンの観光名所、スポーツ、食べ物、楽器、文化などについて流暢な日本語で紹介されました。その後、アルマティ市内にあるカザフスタン・日本センターを訪問し、そこではカザフ国立大学の学生のみならず、日本に関心がある方々の歓迎を受け、カザフスタンの歌やダンス、演奏などで盛り上がりました。

緊張しながらもプレゼン発表は大成功！

カザフスタン歌やダンスの公演は大盛り上がり！

カザフスタン・日本センターでは皆さんと記念撮影

Uzbekistan ウズベキスタン

ウズベキスタン世界言語大学訪問

ウズベキスタン世界言語大学は、国内最大級の外国語大学。英語をはじめ約20か国語のコースがあり、その中に日本語を主専攻とするコースもあります。学生たちは、日本とウズベキスタンやシルクロードとの関係、日本とウズベキスタンが協同で事業を起こす提案など、事前調査で学んだことを発表しました。午後は、現地学生の提案でプロフ（＝米を肉、スパイス、野菜とブイヨンで煮たウズベキスタンの伝統料理）を作ってホームパーティーをやろうとバザールで食材を探すところから始まり、心温まる手料理のおもてなしに感動しました。

発表を聞くため教室は満員！

ウズベク語の名前を漢字で♪

自己紹介プレゼンテーションでアピール

国内フィールドワーク

第3回「新・文明の旅」では、シルクロードと日本の関係を探るために、学生たちはチームに分かれて全国各地でフィールドワークを行いました。
山梨県へ「縄文遺跡の山梨でシルクロード文化を探れ！」、東京都へ「中央アジアの発展と未来の展望を探れ！」、群馬県へ「大陸から伝わった絹織技術と文化の最終形を探れ！」、奈良県へ「シルクロードの東の果て奈良に何かがある！」、広島県へ「シルクロード親善大使、平山郁夫の故郷に行こう！」という5つの調査活動が展開されました。参加した学生たちは、自分たちで問いを立て、自分たちの足で探り当てた知見を基にプレゼン資料を作成し発表を行いました。シルクロードを理解するうえで、どれも興味深い発表となりました。

各国内調査場所での活動の様子

03 Republic of KAZAKHSTAN Republic of UZBEKISTAN

Interview

第3回 新・文明の旅 派遣メンバー
経営学部 2019年度卒業

宮野 豊さん

社会人経験を経て本学に入学。ゼロから起業を学べる場所を求め、櫻澤ゼミにたどり着いた。卒業と同時に、業務用音響機器の販売会社でCEOに就任。現在は社内ベンチャーとして新規事業を立ち上げ、忙しい毎日を送っている。

インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

国の未来を自分事として捉える本気の人々を前にすると甘かったなと気づかされました

新たな国で出会った学生たちが自分の起業家志向に影響を与えた

大学入学前からいつか起業をしたいと考えており、在学中は櫻澤先生の下で経営学を学んでいました。このプログラムはそれらの学びをアウトプットできる場として、そして経験を起業につなげたいという思いで参加を決めました。

きっとこういう機会がなかったら、私は中央アジアについてここまで知ることはなかったでしょう。未知の世界に飛び込む期待感を持って渡航し出会ったのは、ハングリー精神のあるウズベキスタンの学生たちでした。発表で私たちは事業提案をしたのですが、プレゼン後すぐに現地の学生たちが「日本とビジネスがしたい」と話しかけてきてくれました。実現までは考えていなかった自分にとって、実際のビジネスにつなげたいという彼らの本気の思いは大きな刺激を受け、すぐにでも国に利益をもたらす人材になりたいという考えに、まだまだ自分は考えが甘かったなと気づかされました。

帰国後もウズベキスタンの学生たちとは交流を続け、本気で事業立ち上げに向けて活動することに。ビジネスプランコンテストへ出場し実現に向けて動く中、新型コロナウイルス感染症が流行してしまいました。今はお互い、それぞれの国でノウハウを蓄積する時期にしようと決め、計画はストップしていますが、数年後には必ず実現させます。

だからこそ現在の仕事でも、新規事業立ち上げなど積極的に手を挙げ、成長を続けていかなくては、というモチベーションになっていますね。

振り返ると「新・文明の旅」は、大学生らしい学びが濃く体験できる場であり、たくさんアウトプットをして失敗を糧にできる貴重な経験でした。もし失敗しても、それは自分の実力を知ることができる得がたい機会になります。知らない世界に飛び込む勇気こそが大切ですし、今自分が生きていく中で背中を押してくれるものになっています。

現地の学生のプレゼンに感動!

ウズベキスタンの友人からもらったティーカップ

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました!

お答えいただいたのは・・・

ウズベキスタン国立世界言語大学

イブラギモヴァ・マリカ先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか?

非常にいいプログラムだと思います。このプログラムを通じて学生さんの視野が広がり、普段の生活の中でなかなか積めない経験を得ることができます。現在のグローバル化社会に必要な国際理解ができるようになると思います。または、若者同士のグループで楽しい旅、面白い作業をするのは一生忘れられない思い出になると思います。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは?

本学の日本語を勉強している学生のためには日本人とコミュニケーションできる貴重な機会でした。なお、日本人の若者と話したこと、日本のことを紹介していただいたのが本当によかったです。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

是非、今後とも「新・文明の旅」プログラムに参加させていただきたいです。例えば、このプログラムの発展版として前もって若者同士で何か社会的な意義のあるプロジェクトを準備し、貴学の学生さんがウズベキスタンにいらっしゃった時にそのプロジェクトを実施し、結果を発表することはいかがでしょうか。

College Information

ウズベキスタン国立世界言語大学

住所:Решетов кўчаси, Тошкент, UZBEKISTAN

ウズベキスタンの首都タシュケントにある、同国最古かつ最大の大学です。学部は英語(第一～第三)、ローマン・ドイツ語、ロシア語など7学部が設置されており、通訳学部に日本語を主専攻とするコースがあります。

第４回

駐日インドネシア大使による特別授業

タイ・カンボジア・インドネシア

“魅力を伝え合う” 3ヶ国の学生たちとの交流

第4回「新・文明の旅」プログラムは、開催を1年延期し、2021年4月から開講しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な蔓延により、留学や海外渡航に大きな制約がある中で、国立コンケン大学（タイ王国）、カンボジア健康科学大学（カンボジア王国）との包括協定を結び、「新・文明の旅」を履修している学生たちはインターネットを活用したオンライン交流や、国際郵便の活用によるEHAGAKI PROJECTなどに積極的に取り組みました。2022年3月に予定していたタイ王国、カンボジア王国、インドネシア共和国の3ヶ国への訪問は中止となりましたが、オンラインで3ヶ国の学生たちと世界が抱える社会問題について意見交換をしたり、日本からは和楽器演奏会を企画したり、お互いの国を紹介しあうような交流を継続して行い、それぞれの国について理解を深め合いました。このように現在の予測不可能な社会においても、第4回「新・文明の旅」は活発に授業が進められ、学生・教職員が一丸となって第5回「新・文明の旅」へつなぐため、2024年のゴールを目指して邁進しました。

学習プログラム

新・文明の旅特講a　2021年4月～8月

自立と共生の精神を国際的視座に立って深く養成するため、学生たちが多様な経験を通して一層成長の機会を得ることができます。また、タイ・カンボジア・インドネシアの国々の文化、宗教、民族性などについて学ぶとともに、それぞれの国が抱える社会的問題について理解を深めました。

【到達目標】
1. 3カ国の文化や民族性、日本との関係について説明することができる。
2. 3カ国が抱える社会課題について説明することができる。
3. 疑問に思ったことについて自ら調べ、それらを総合して個人あるいはチームで説明、発表ができる。

新・文明の旅特講b　2021年9月～2022年3月

訪問国が抱える社会問題について現状を知り、持続可能な未来に向かって自分たちができることについて考えること、それらについて3ヶ国の大学生へプレゼンテーションし、ディスカッションができるようにまとめること目標としています。

【到達目標】
1. 日本の歴史、文化、経済、ビジネス、社会課題等についての基礎的な知識を持ち、疑問に思うことは自ら調べ、それらを総合して個人あるいはチームで説明、発表することができる。
2. 東南アジアの国々が抱える社会課題について説明、発表することができる。
3. 持続可能な未来のために、自分たちができることについて考え、発表することができる。

スケジュール

2020

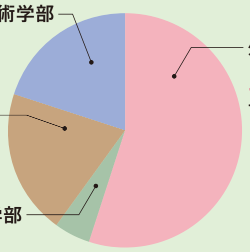
コロナ禍の影響により、プログラム（授業）が1年延期となる。履修学生を中心に訪問予定国の大学生たちと様々な交流をおこなう。

- 9月：宝生会夜能特別公演　和楽器演奏会：ウズベキスタン留学生を励ます会
- 10月：EHAGAKI PROJECT
- 11月：「和楽器の魅力を探る」第2回　～邦楽囃子の響き～　実施報告

2021

- 3月：国立コンケン大学（タイ王国）との包括協定締結
- 4月：新・文明の旅 特講a
  - 「和楽器の魅力を探る」第3回　～演奏会＆「新・文明の旅」OB・OG講話会～
- 7月：カンボジア健康科学大学（カンボジア王国）との交流協定締結
- 9月：新・文明の旅 特講b

参加学生数（全参加数：53名）



2022 Republic of Indonesia

コロナ禍により渡航できなかった2021年を経て、1年間「新・文明の旅」プログラムを履修した学生の中から選抜された5名がインドネシアを訪問。現地大学生との交流や文化遺産の探訪などを実施しました。

派遣プログラム

Indonesia インドネシア

ウダヤナ大学訪問

ウダヤナ大学では、日本語学科の学生と交流を深めてきました。文京生５名が自己紹介をした後で、日本の食文化や着物、アニメや若者音楽など、日本文化について紹介するプレゼンテーションをすると、流暢な日本語で多くの質問が寄せられました。特に日本のアニメが好きで日本語を学び始めた学生が多く、アニメの話では大いに盛り上がりました。

その後は、本プログラムの集大成として学生が考えた「本学で行える持続可能な未来に向けての取り組み」についてプレゼンテーションをしました。質疑応答の場面では学生同士で活発に意見交換を行うことができ、多くの気づきを得ることができました。最後のフリー時間では、本学より持参した着物を現地学生に着付けして和装を楽しんでもらったり、若者文化の話や記念撮影で大いに盛り上がり、あっという間に交流時間が過ぎてしまいました。現地学生からの歓迎を受け、とても充実した時間を過ごすことができました。

伝統舞踊ケチャダンス

着物姿で はい、チーズ！

日本からのお土産に興味津々

現地学生の前でプレゼンテーション

インドネシア・プログラムの学び

学生たちは「持続可能な未来に向けてのエコライフ・スマートライフ」をテーマとしてバリ島のゴミ問題を中心に環境問題の現状と課題について学び、その解決策について考えました。社会起業家支援団体「アースカンパニー」による2回の講義とバリ島からの中継による3日間のオンライン研修を受講し、資源循環型キャンパス実現プロジェクトを提案しました。夏休みには代表学生がバリ島に渡航し、現地プログラムで学びを深めました。

アースカンパニー社会貢献活動を体験

バリ島ではアースカンパニーが運営する先進的エコホテルに滞在し、循環型の施設や技術について学びました。他にも環境団体「Sungai Watch」の河川清掃活動では海洋汚染の原因となっているプラスチックごみの回収作業を体験したり、最先端エコスクールの「グリーンスクール」にも訪問したりしました。グリーンスクールは、持続可能な世界を創る未来のリーダー育成を目的としており、竹で作られた壁がない校舎が立ち並ぶ循環型キャンパスで、生徒自身でプロジェクトを提案し、活動する体験型授業が展開される革新的な学校でした。文京生たちは環境問題の深刻さと、解決のための活動や教育を体験し、日々のエコライフ・スマートライフの実践を心に誓っていました。

説明を受けながら、森の中を進みます。

河川清掃活動の様子

04

Republic of Indonesia

Interview

第4回 新・文明の旅 派遣メンバー
外国語学部 4年

村上 由佳さん

中学生の頃、海外に関するテレビ番組が好きだったことから海外に興味を持つ。訪問国の学生とはInstagramを交換し、現在も交流が続く。プログラム終了後にプライベートで再びバリ島を訪問した。将来は環境や国際協力に関わる仕事に就きたいと考えている。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

“今の自分の軸は何か”って考えたとき旅が自分の気持ちをここまで変えたんだなって思いました

新たな国で知った交流の面白さと発見した自分の“得意”

大学の入学式で紹介された「新・文明の旅」プログラム。海外に行きたいと思っていた私にとって、その内容はとても魅力的で参加を決めました。第4回の訪問先はインドネシア・バリ島。観光業で栄える地域というイメージを持っていましたが、事前の授業で環境問題に課題があることを学んでから現地を訪問しました。しかし、目にした光景は想像以上。川がゴミであふれる光景を見て、目で見ないと感じられないものがあると思いました。

この旅を通して感じたことは、人と交流することの面白さ。海外の人との初めての交流がとにかく楽しかったです。現地の学生たちは交流に積極的。「何が好きなの？」「SNSを交換しよう」とたくさん話しかけてくれて、日本に対する興味の大きさが表れていました。着物など、持ってきたお土産も大人気でした。現地でできた友人とは、その後旅行で、再度インドネシアを訪れた際にも一緒に遊ぶなど、交流が続いています。言語が通じなかったとしても、ジェスチャーや笑顔で、人と人はコミュニケーションがとれるのだと実感しました。

第4回はコロナ禍に大きく翻弄された回です。渡航可否は判断が難しい時期でした。もし行けていなかったら、私の人生は変わっていたかもしれません。プログラム中は「人と話す」場面が多かったのですが、自分は人と話すことが好きなのだと、得意・不得意を見つめ直す機会になりました。環境問題や国際協力の分野にも興味が出て、現在はNGOでインターンシップをしています。また、大学に入る前は、英語力に長けていたわけでもなく、自分には特別なものがないと思っていましたが、一度挑戦したことが自信につながりました。やってみたいという気持ちがあるならば、怖くてもチャレンジしてみてほしいと思います。

現地の学生と笑顔が溢れるたくさんの時間を過ごすことができました！

パーカーで連帯感が生まれました！

訪問国でお世話になった方に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

お答えいただいたのは・・・

一般社団法人Earth Company
インパクトアカデミー・マネージャー

藤本 亜子 様

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？

様々な専門を学ぶ学生たちの分野横断型のプログラムという点が素晴らしいと感じました。今回はごみ問題にフォーカスした研修でしたが、社会の発展に「地球の持続可能性」や「人々のwell-being」という視点でみなさん熱意を持って学ばれ、学校生活から変化させる実践へ繋げていかれたことに、とても貴校のプログラムの意義を感じます。

Q2 交流先のウダヤナ大学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは？

日本の同世代との交流や意見交換を通じて、価値観の多様性を感じたり、日本への関心を高めておりました。持続可能な世界を創るということは、まず他国へ関心を持ったり繋がりをつくることが大切ですが、本プログラムは環境問題を解決するためのノウハウだけではなく、貴校の学生たちがつながったことにも大きな意義を感じています。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

社会変革は実は難しいことではなく、自分の感じた社会・環境への違和感を言葉にしたり、目の前で困っている人を助けるなど、誰でもできることから始まると思っています。ぜひ、その原体験に蓋をせず、日々を意識的な暮らしに変化させていくことを期待しています。

Company Information

一般社団法人 Earth Company(和名：アース・カンパニー)

住所：〒107-0062 東京都港区南青山 2-15-5

次世代につなぐ未来のために人と社会と自然が共鳴しながら発展するリジェネラティブなあり方を追求すべく、①インパクトヒーロー支援事業、②インパクトアカデミー事業、③バリ島エシカルホテル事業の3つの事業を展開しています。

第5回

アンコールワットにて

カンボジア・台湾・韓国

同じことに驚き、違いをたのしもう！

ついに今回で「新・文明の旅」プログラムがゴールを迎えます。第5回の「新・文明の旅」プログラムは、カンボジア・台湾・韓国への訪問です。ユーラシア大陸の東端、シルクロードの終着点でもある東アジアは、日本とは地理的にも近く文化的にも歴史的にも繋がりの深い場所。学生は事前準備を重ね、それぞれの場所での文化交流・プレゼンテーションに臨みます。15年にわたる壮大な旅の集大成として、大きな期待と小さな不安を胸に出発します。

学習プログラム

新・文明の旅特講 a/b

第五回「新・文明の旅」プログラムでは「My Way + Your Way = The New Power of the Future」をテーマに掲げて始まりました。授業では訪問先の大使館関係者、専門の研究者を招き、カンボジア・台湾・韓国の環境や文化を幅広く知ることができる大変貴重な機会となりました。また、日本で開催されている文化イベントなどに参加することで、文化を肌で体験し、学びを深めることができました。

プレゼンテーションを通しての学び

授業ではプレゼンテーションに取り組むことで、ゲスト講師の方々からの講義はもちろん、自身での調査・グループメンバとの意見交換を行うことで、訪問先について多角的に理解を深めることができました。さらに、その地域が抱える問題を調査し、その解決策を提案することで自分の意見を持ち、発信する力を高めることができました。また、同じアジアの一員として、その歴史や日本との関係を知ることは、新たな視点を得る機会ともなりました。

グループワークで培う絆

学生たちは訪問先ごとに部会に分かれ、さらにそれぞれ三つのグループをつくり、学部やキャンパスを超えて協力してプレゼンテーションの準備と発表を行いました。また、部会ごとに計画・実施する国内フィールドワークでは実際に海外の文化に直に触れる機会を共有しました。さらにグループメンバーが互いを知り、尊重し支えあう関係を築くことができました。

2024

Kingdom of CAMBODIA
TAIWAN
Republic of KOREA

派遣プログラム

Cambodia カンボジア

カンボジア健康科学大学・日本語学校 訪問

国内唯一の国立医療系総合大学であるカンボジア健康科学大学（プノンペン）の訪問では、派遣学生が英語でプレゼンテーションをした後、現地学生と一緒に最新の手のひらサイズ機械で心電図を計測するワークショップを開催しました。また、現地で日本語が学べる「まなぶ日本語学校」では、「やさしい日本語」で準備したプレゼンを発表し、現地の生徒さんと一緒にゲームを楽しみました。続いてシェムリアップで活動する任意団体Kumaeの活動を見学し、カンボジアの社会問題について学ぶなど、多くの体験をしました。

現地学生と日本語ゲームで交流

Taiwan 台湾

東呉大学 訪問

台北に位置する東呉大学の訪問では、台湾で最も長い歴史を持つ日本語学科の授業に参加しました。「日本の大学生の生活」「大学生の恋愛事情」についてプレゼンテーションし、現地学生とディスカッションで盛り上がりました。夜市にも連れだしてもらい、夕食を共にしながら時間が過ぎるのを忘れるほど色々な話をしました。現地学生の心からの温かいサポートに感謝しつつ、異なる文化を持つ人との対話の楽しさを肌で感じた日々でした。

ディスカッションで現地学生と盛り上がりました

Korea 韓国

東亜大学 訪問

東亜大学の訪問では、現地学生による日本語での大学紹介とキャンパスツアーが行われた後、交流会で両大学の学生がプレゼンテーションを実施しました。文京生は日本のトレンドについて発表し、東亜大学の発表では日本のアニメを韓国風にアレンジした動画が流れるなど、アニメの人気を強く感じました。さらに最新の流行語や両国のイメージなどに関するディスカッション、ジェスチャーゲームも行われ、貴重な交流の機会となりました。

横断幕を囲む両大学生の集合写真

スケジュール

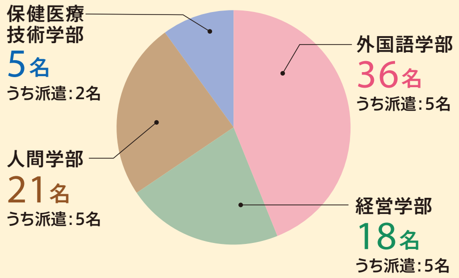
2023

- 4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a
- 9月：新・文明の旅 特講b
- 10月：大学祭特別企画「新・文明の終着点韓国の魅力を語ろう」開催
- 12月：派遣学生選抜発表

2024

- 3月：新・文明の旅 派遣プログラム 3月13日～27日
- 4月：新・文明の旅 総合講義
- 10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：80名）



国内フィールドワーク

第5回「新・文明の旅」では、訪問国ごとの部会に分かれて国内フィールドワークを行い、学んだことをプレゼン資料にまとめて発表しました。カンボジア部会では、現地でカンボジアの社会問題に取り組む団体からゲスト講師をお招きしました。バナナペーパーの制作・加工を通したカンボジアでの雇用支援について知り、学んだことを動画にまとめてYouTubeに公開しました。台湾部会では、2023年11月に有明で開催された「台湾ランタンフェスティバル」に参加し、ランタンづくりや屋台料理を体験。台湾に留学中の学生へのオンラインインタビューも実施され、リアルな現地情報にも触れることができました。韓国部会では、四ツ谷の駐日韓国文化院と新大久保の高麗博物館を訪れ、韓国の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、伝統的な民族衣装「チマチョゴリ」の試着体験も行いました。また、韓国料理店の訪問では、食文化の観点からも日本と韓国の違いを学びました。

国内フィールドワークでの各部会活動の様子

05

Kingdom of CAMBODIA
TAIWAN
Republic of KOREA

Interview

第5回 新・文明の旅 派遣メンバー
経営学部 3年

堺 梨桜 さん

経営学部のGCI（全学部横断型 グローバル人材育成プログラム）生として、グローバルマインドを学んでいる。1年生の時にGCIプログラムでタイへ留学した。3年生の現在は、将来に向けて営業業務を体験する長期インターンシップに参加中。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

日本だけにとどまりたくない海外で新たな学びや風景を経験して思いました

日本では見えなかった厳しい現実から自分の新たな夢が生まれた

参加を決めたのは、周りの友達も多く参加するということと、2週間で3カ国を回る貴重な機会だと思ったことがきっかけ。1年生でタイへ行った時に、視野が広がった感覚を持ったこともあって、もう一度海外に行ってみようと思いました。

訪問国の一つ、カンボジアではゴミ山を目にした時のインパクトが強く、自分たちもたくさんのゴミを出していることに気付かされました。さらに衝撃を受けたのは、5、6歳の子どもたちが、家族のためにゴミ山で働いているということ。日本では見えなかった現実を見て、子どもの人権について考えるきっかけになりました。帰国後は日本でも何かサポートできないか、とボランティアを自分から調べるようになり、こども食堂の立ち上げが自分の夢のひとつになりました。

今回のプログラムで、私は派遣メンバーのリーダーである委員長を務めました。今まで大人数をまとめるリーダー経験はなく、コミュニケーションや進行など難しさを感じながらもやり遂げることができました。楽しい部分が多かった反面、挫折する経験も大学時代に経験できたことは、将来につながると思います。

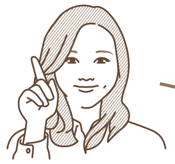
「新・文明の旅」を通じて、日本だけにはとどまりたくないという気持ちが芽生えました。後輩のみなさんには、一人でも、友達と一緒でもいいので、とにかく海外に出て、日本以外の文化にまずは触れてみてほしいと思います。行くまでは抵抗感があるかもしれませんが、学校のプロジェクトや留学希望者の集まりに参加することで、「海外に行きたいと思っているのは自分だけじゃない」と後押しになります。新しい知見や学び、風景、食べ物など、どんどん新しいものを取り入れると、人生が楽しくなると思います。

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました！

お答えいただいたのは・・・

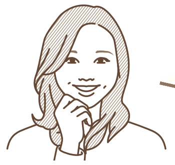
韓国・東亜大学
任 ダハム 先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか？



様々な国の学生たちが集まり、お互いの文化を学び、新しい友達を作りながら異文化理解を深める、とても良いプログラムだと思いました。東亜大学との交流会が今回の「旅」の最後の日程だと聞きましたが、このような素敵なプログラムの締めくくりに参加できて光栄です。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは？



日本人の友達と日本語で話す機会があまりなかった学生たちにとって、日本人の友達を作るきっかけになったことが、一番楽しい経験だったようです。交流会が終わった後、貴学への交換留学を希望する学生がかなり増え、学生たちが日本語と日本文化にさらに興味を持つようになったと思います。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

一度きりの交流会ではなく、これからも様々な形で定期的に交流の機会があれば幸いです。
韓国では、日本が「最も近くて遠い国」と言われますが、このような交流会を通じて、学生たちが互いの文化を理解し合い、日韓文化交流に貢献できる人材になることを願っています。

College Information

東亜大学

住所 〒49236　釜山市西区九徳路225

韓国第二の都市・釜山最高の私立総合大学です。1946年に創立され、学問分野別に3つのキャンパスを構えています。現在11の学部に61の学科があり、学生数は2万3千人を超えます。

交流大学からの
留学生受け入れ

「新・文明の旅」をきっかけに、訪問した交流大学より本学へ留学生が来てくれるようになりました。

留学生との交流イベント 01
ユーラシア大陸交流会

2019/11/25　本郷まちづくり研究センターにて

まちづくりセンターで「トルコ・ブルガリア・カザフスタン」の留学生たちと各国の料理や日本の料理を作りながら交流を行いました。当日は、在学生や卒業生も多く参加して渡航した国々の郷土料理を食べながら、皆で語り合いました。

留学生との交流イベント 02
留学生を励ます会

2020/9　本郷キャンパスにて

世界に急激な広がりを見せた、新型コロナウイルス感染症は、本学にも大きな影響を及ぼしました。ウズベキスタンから留学していた学生たちは、母国へ帰ることもできず、不安な日々を過ごしていました。そんな彼らを少しでも励まそう、せっかく日本での滞在が延びたのであれば、日本文化にもっと触れてもらおうと、「新・文明の旅」実行委員会と履修学生が企画し、「和楽器演奏会」を開催しました。

見たことはあっても、触れたことのない和楽器を間近で見て、触って、演奏者からの話を聞きながら日本文化に触れる良い機会となり、彼らの笑顔を見ることができた一日でした。

和楽器の魅力を通して留学生と交流

The “Road of Eurasian Civilizations” Program

留学生との交流イベント 03
International Dinner

2024/7/12　留学生寮にて

留学生が滞在する寮で料理を通して文化交流を行うInternational　Dinnerが開催されました。留学生と文京生が互いの国の料理を作り、それぞれの国の食文化を学びました。たくさんの学生が寮に集まり、一緒に料理を作ったり食事を楽しんだりして、一緒に時間を過ごし、忘れられない思い出となりました。

留学生との交流イベント 04
留学生プログラム修了式

2024/7/18　本郷キャンパスにて

修了式では半期または一年間の文京での留学プログラムを無事修了した留学生をお祝いしました。留学生は厳粛に修了証を受け取るとともに、これまでの体験や思い出と感謝を伝えるスピーチを日本語で行いました。参加者全員が別れを惜しみながら留学生たちの新たな門出を祝いました。

■訪問国からの留学生

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2022年	2023年
トルコ	1人	1人	1人	1人	1人	—	—
ブルガリア	2人	—	2人	1人	2人	2人	2人
カザフスタン	—	—	—	1人	2人	2人	2人
ウズベキスタン	—	—	—	2人	2人	2人	2人
リトアニア	—	—	—	—	—	1人	—

様々な交流

この「新・文明の旅」プログラムでは、
授業外でも様々な国の人々と交流活動を
行っています。

大学祭を通しての交流

「新・文明の旅」での体験発表や、つながりを持った国々との文化交流の場として、大学祭で多くの方々に発信をしてきました。

ブルガリアダンスを踊ろう

日本とブルガリア共和国の文化交流の一つとして、大学祭（ふじみ野キャンパスアトリウム）にて、駐日ブルガリア共和国大使館ならびにブルガリア舞踏専門家の全面協力により、初心者から踊れる、ブルガリアダンスを学生や来場された地域の人々と一緒に楽しみました。「新・文明の旅」に参加した学生たちが司会進行を行い、大変有意義な文化交流となりました。この様子は、ブルガリアの国営放送で紹介されました。

「トルコ地震」に対する募金活動

記念すべき第一回目の訪問国と決まっていた『トルコ共和国』。多くの学生達がトルコ共和国に大変興味を持ち、親しみを感じながら勉強していく中、2011年10月23日、トルコ東部地震（トルコ共和国東トルコヴァン市）が発生しました。当時、「新・文明の旅」プログラムに参加していた学生たちが‘自分たちに出来ることは何か’と考え立ち上がり、学内・学外での募金活動を行いました。自分たちで“発信”、“行動”に移したのです。

集まった募金は、寄せ書きや千羽鶴とともに、駐日トルコ大使館を通してトルコ共和国へ寄付されました。

当時の学生達は「エルトゥールル号事件やイラン・イラク戦争に伴う日本人の救済活動などがきっかけで、日本とトルコでは100年を超える深い友好関係があります。3.11東日本大震災の時、震災8日目で支援にかけつけてくれました。」と語り、多くの募金を集め届けることができました。

駐日トルコ大使館にて

駐日ラトビア大使館との共催イベント

「新・文明の旅」プログラムを通して、つながりを持った各国大使館と様々なイベントを学内外で行っています。

これは、文京学院大学と駐日ラトビア共和国大使館が共催でしたプロジェクト「琥珀の神秘」写真展です。本学にてラトビア写真展を開催し、学生、地域の人々にラトビア共和国を知っていただく機会を作りました。

EHAGAKI PROJECT

コロナ禍によるオンライン疲れが見え隠れする状況下において、海外の協力校と本学学生との間で、敢えてオールドスクールなair mail による「文通」での交流を図りました。

多くの履修学生たちが、思い思いに選んできた絵葉書にメッセージを添え、かつて本学に留学生として共に学んだブルガリア、ウズベキスタン、カザフスタン各大学の学生達へEHAGAKIを送りました。このプロジェクトを通して学生間で親近感を高め合い、オンライン交流の活性化へとつなげています。

「和楽器の魅力を探る」第2回 ～邦楽囃子の響き～

2020年11月29日午後、文京学院大学本郷キャンパスで、新・文明の旅 日本文化教育プログラム「和楽器の魅力を探る」第2回 ～邦楽囃子の響き～ が行われました。第1回で演奏を披露いただいた尺八奏者の津上弘道氏に、今回はコーディネーターをお務めいただき、同日昼前に「新・文明の旅」プレガイダンスを受けた学部生12名に、本学のアメリカ人チューターおよび関係者が加わり、総勢30名が生の演奏を体感しました。

邦楽囃子を体験

みんなで実際に演奏

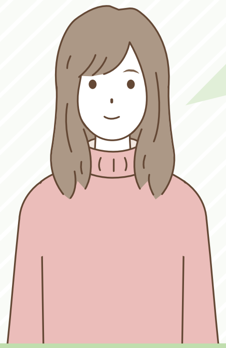
「和楽器の魅力を探る」第3回 ～演奏会&「新・文明の旅」OB・OG講話会～

2021年4月25日、文京学院大学本郷キャンパス仁愛ホールにて、第4回「新・文明の旅」プログラム「雅楽公演」「OB・OG講話会」が開催されました。第1回と第2回の「新・文明の旅」に参加したOB・OGの講話会では、「新・文明の旅」に参加した際の体験について、さらには卒業後その体験がどのように自らの生活に影響を与えたかについてお話しいただきました。

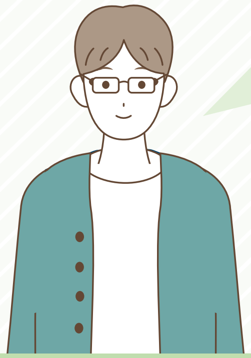
OB・OG講話会の様子

雅楽公演の様子

履修生の声!!



ただの講義形式ではないこのプログラム！大使館の方やジャーナリストの方々をお招きして交流国について様々な側面から学び、グループで自由にテーマを決めて調査し、協力してプレゼンするという実行型授業です。
自分で考え行動に移す「実行力」を育むことができます。



日本文化を学ぶことも、海外へ日本を発信するためには必要なこと。このプログラムでは、「伝統芸能鑑賞会」を学内で開催し、能や和楽器演奏を体感し、交流先大学へ日本文化のすばらしさを伝えられ、他の授業にはない貴重な体験ができました。有意義な時間とたくさんの知識を、他学年、学部生とともに学びあうことができます。

「新・文明の旅」プログラムの継続的な学びのために

「新・文明の旅」で出会った各国の大学や関係者と交流を続けながら、
さらなる継続的な学びのため「新・文明の旅＋（プラス）」プログラムが企画され、
2021年度までに、「新・文明の旅＋」ブルガリア交流、「新・文明の旅＋」ラトビア・リトアニア交流が実施されています。

+2013

「新・文明の旅＋」

ブルガリア交流

この訪問は、第1回「新・文明の旅」で訪問したブルガリア共和国への継続的な学び、このプログラムを下級生へと継承するために企画され、2013年度の教育プログラムとして、「新・文明の旅＋」ブルガリア交流が行われました。

「日本について、あるいは自身の考えを表現する主体的な姿勢」を持つことを目的としました。そのため第1回「新・文明の旅」プログラムでは学生たちのプレゼンテーション、食事会や文化交流イベントなどが主流でしたが、この＋（プラス）では、学生同士のディスカッションや共同作業をより促進するため「メディア・リテラシー教育プログラム」を導入。文京生とソフィア大学生が共にメディアについて学び、最終的にはビデオ作品を共同で制作する参加型プログラムに取り組みました。

ブルガリアではソフィア大学生の自宅にホームステイし、日常生活を肌で感じながら、有意義な時間を過ごしました。

+2019

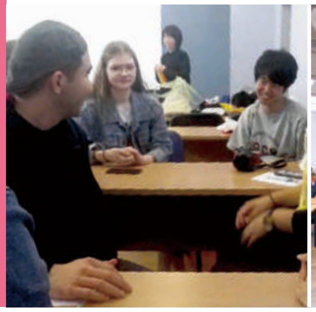
「新・文明の旅＋」

ラトビア・リトアニア交流

第2回「新・文明の旅」で訪問したラトビア共和国、リトアニア共和国へ、継続的な学びとして、2019年度に「新・文明の旅＋」ラトビア・リトアニア交流が行われました。

このプログラムでは「テーマ型ツーリズムの提案：バルティックデザインをめぐる旅」のテーマに沿って、文京生たちは訪問国、日本を学び、自ら立案・計画をし、ラトビア・リトアニア各国の学生たちとフィールドワークを実施しました。

このプログラムでは異文化交流の機会だけではなく、訪問国の学生たちとの協同的な作業を通して、自分の新たな一画を発見することができました。まさに、本学の建学の精神である「自立と共生」の考えを実践する場としてこのプログラムは機能しました。



「新・文明の旅」プログラム15年の長い旅路に感動のフィナーレ！

2024年3月26日、第5回の最終訪問地である韓国の海雲台（ヘウンデ）の海岸で、この2011年にスタートした「新・文明の旅」全5回の壮大なプログラムが遂にフィナーレとなるこの瞬間を、学生たちによるゴールテープのカットで祝いました。

この「新・文明の旅」は
ユーラシア大陸を横断する長い旅路の中で
異なる文化との交流を通じて
学生たちに計り知れない刺激を与え
自己成長の機会を創出しました

引き続き学生たちが日本を飛び出し
世界各地との交流を深め
新たな探究の旅に出ることを応援し続けます

THE "ROAD OF EURASIAN CIVILIZATIONS" PROGRAM

1st

2011.4 ～ 2012.9

Turkey・Bulgaria・Romania

2nd

2014.4 ～ 2015.9

Poland・Lithuania・Latvia

3rd

2017.4 ～ 2018.9

Kazakhstan・Uzbekistan

4th

2021.4 ～ 2022.9

Thailand・Cambodia・Indonesia

5th

2023.4 ～ 2024.9

Cambodia・Taiwan・Korea

Bunkyo Gakuin University